

はいかい 高齢者徘徊模擬訓練

- 地域で声かけ・見守りを実践 -

高齢などにより記憶力や判断力が低下すると、道を間違えて家に帰れなくなったり、自分がどこにいるのかわからなくなったりすることがあります。

市島地域の前山地区で、11月7日(木)に、地域ぐるみで認知症の高齢者を見守ろうと、「高齢者徘徊模擬訓練」が実施されました。3つのエリアに別れ、高齢者に見立てた人を速やかに発見・保護する訓練を行いました。

認知症高齢者プロフィール

丹波竜三さん (80)

《認知症の症状》

- ・直前のことを忘れる、何度も同じことを聞く
- ・家で何もすることがないと、ふらっと外へ出ることがある
- ・かつて元気な時は、よく田んぼに出かけていた

《特徴》つえ、麦わら帽子

〔丹波竜三役〕 さきやま苑 管理者 山辺さん

訓練開始 ①



地域の大人だけでなく、前山小学校4年生のみんなも模擬訓練に参加。まずは、友だちと一緒に下校する想定で訓練をスタート！

発見 ②



おじいちゃんひとり？
家の人はおってですか？

下校の途中に、時々顔を見かけるおじいさんが一人で歩いているのを発見。おじいさんの少し不安な表情から、「家がわからないのかな」と思った子どもたちは、周りの大人に助けを求めすることにしました

田んぼの水見に行きよるんや。
田んぼどこや。

通報 ③



田んぼの水見に行きよるんや。あんた知らんわ。何で人がいっばいおんのや。

今日はよい天気やねー。
おたくのことは時々見かけるわあ。

見守り ④



ここから歩いて帰るのは遠いから車が迎えに来るんやって。もうちょっと待っていな。

はよ帰りたいわ。家のもん呼んでくれーや。

しばらくすると連絡を受けた警察官が到着し、竜三さんは無事家に帰ることができました

もしもし。徘徊されている高齢者がおられます。お世話になれますか。



子どもたちからの知らせを受けた地域の人たち。一人は、やさしく丁寧に竜三さんの話を聞き、もう一人は、速やかに駐在所に連絡を入れました

これで家族もひと安心♪

終わり ⑤



警察官の到着まで、竜三さんの不安な思いを取り除こうと優しく声かけをする子どもたち

参加者の声 - 徘徊模擬訓練の体験者、関係者に感想を聞きました -



丹波認知症疾患医療センター 相談員 寺本さん (認知症の高齢者役)

「どこに行きよってん？」おだやかな優しい声かけに「ほっ」としました。



津田久子さん (68) 市島町鴨阪

道路の真ん中を歩いている高齢者を歩道に誘導しようと声をかけましたが、難しかったです。相手の気持ちになって声をかけるなど、工夫が必要ですね。



高橋 勝朗さん (73) 市島町徳尾

地域にも認知症の高齢者が道に迷うことがあります。少しでも異変に気付いたときは、積極的に声をかける習慣を身に付けたいです。



グループホーム 村いちばんの元気者 管理者 若森さん (認知症の高齢者役)

グループホーム「村いちばんの元気者」には18人の方が24時間生活されています。地域での見守りや声かけをお願いします。



特別養護老人ホーム 丹寿荘 地域支援担当課長 原田さん (参加者の見守り役)

前山小学校では、毎年、認知症についての校内学習をしています。今回は、どきどきの体験学習でした。次は、勇気をもって声をかけたい。そんな子どもたちの感想が印象的でした。



認知症サポーター養成講座を受けてみませんか

※開催希望日の45日前までにお申し込みください
 〇丹波市高齢者あんしんセンター
 ☎ 74 - 0368



オレンジリングを掲げる前山地区の参加者のみなさん。認知症サポーター養成講座を修了した人には、「認知症サポーター」の証であるオレンジリングとステッカーが贈られます

「見守りの輪を地域で広げよう」



オレンジリングを掲げる前山地区の参加者のみなさん。認知症サポーター養成講座を修了した人には、「認知症サポーター」の証であるオレンジリングとステッカーが贈られます